

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 睦会	代表者	理事長 中沢 允	法人・ 事業所 の特徴	運営法人（昭和 52 年設立）は長野市と須坂市で高齢者中心の総合福祉事業を展開している。当事業所は「ゆっくり・のんびり・ほのぼのと」運営方針のもと、「利用者一人ひとりがその人らしく過ごせること」「身体機能の維持」「家族の介護負担の軽減」を目指している。
事業所名	むつみ家ほのぼの	管理者	青木 貴宏		

出席者	市町村職員	知見を有する もの	地域住民・地域 団体	利用者	利用者家族	地域包括支援セ ンター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	2 人	人	2 人	1 人	人	13 人	3 人	23 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価時に勉強会を行い、利用者全体に向けての視点や認識を共通にして取り組む。 運営推進会議の都度、自己評価項目についても取り上げ、評価がしやすいように報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となる事項は詳しく挙げるよう周知した。 できていない事項が昨年度とあまり変わらず職員全員の意識の向上が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 初期支援について、もう少し具体的に検討すると改善実施しやすくなる。 成年後見人制度を活用している人もいるので制度の理解が必要。 研修に参加している職員が少ないのでもう少し外に出る機会を作ったほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見人制度の理解や各種研修への参加など、毎年「できていない」と記載の項目について意識して取り組む。 自己評価前に勉強会を行い、担当者会議や地域活動など、個人でなく事業所としてできている事項は全員が同じチェックができるよう視点を統一してから評価に取り組む。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 古民家の雰囲気を壊さない印象の看板の設置に取り組む。 運営推進会議の際、現場視察を取り入れ、委員の方々から意見を頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に事業所として浸透してきているので、看板設置が必要なのか再度検討するべき。 現場視察は年 1 回ではなく必要に応じて定期的に実施していただきたい。 ワックスがはがれたり傷や汚れが増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 看板設置など、何故取り組めていないのか経過が不明。 看板については、地域の皆様にも理解していただいているので必要ないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 看板設置については職員会議にて必要性を再検討し、結論を出す。 開設 10 年を越え、傷や汚れも増えているので年間で計画して美化、環境整備を行う。
C. 事業所と地域の かかわり	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が地域の方々と良い関係が築けるよう、こちらから積極的に挨拶や声掛けを行う。 今ある催しの充実を図り、地域との関係を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏祭りや焼き芋大会では、レクリエーションを通して利用者と地域児童が身近に関われる機会を作れた。 地域の方が以前より身近に感じられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の方が介護の相談に来られるので、相談しやすい場所と言える。 地域との関わりを意識していると感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能についてもっと知っていただけるよう広告を作成し、常会や催し等、地域の皆様と関わる機会に配布する。 地域に出向く時は、担当以外の職員も参加できるように調整する。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の地域外の利用者、特に独居や高齢夫婦のみの方について、遠方の家族と連携を取りながら、居住地域でも暮らしを支えられるよう情報収集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの利用者について、支えている家族や近隣の方はいるが、職員個々がバラバラに把握しており集約できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に外出していたり、地域の方が来てくれたりしているので取組んでいると思う。 「本人が住んでいる地域の方を交えた会議」は運営推進会議のことで良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の利用者の個性や背景が把握できるよう、把握している情報を記入して一覧にする。 在宅での暮らしを支えられるよう、必要に応じてその人のキーパーソンとなる人と連携を図る。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・寄せられた提案や意見について、改善した取り組みや内容を次の会議で報告し、意見を活かした取り組みを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加している職員、していない職員で意識に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議でいただいた助言を実践し、報告することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄せられた提案や意見について、改善した取り組みや内容を次の会議で報告し、意見を活かした取り組みを行っていく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の訓練のうち、1回は水害想定で実施する。 ・会議において訓練に向けて企画や実施後の報告に対しての助言をもらう機会を作る。 ・災害時の持てる機能を開示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は、地域の消火栓の訓練もなく地域の訓練に参加していない。 ・防災計画書が改定されておらず、現状と合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自主防災会にやすらぎの園が参加しており、毎年やすらぎの園も通報訓練に参加しているが、やすらぎからほのぼのへ通報しているか確認が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防（水防法等）関連の法改正に沿った防災計画書の改定を行う。 ・通報訓練や消火栓の訓練など地区の防災活動に参加する。